

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 美術館DX推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県美術館 総務部 管理調整係 電話番号：058-271-1313

E-mail：c21801@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,710 千円 (前年度予算額： 3,516 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,516	3,516	0	0	0	0	0	0	0
要求額	2,710	0	0	0	0	0	0	0	2,710
決定額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・平成30年度に岐阜県美術館Webサイトのトップページデザイン及びサイト構成のリニューアル、レスポンス対応等を行い、開催中の展示やイベント等、情報を瞬時に伝えることができるものにはリニューアルし、Webサイト内の「所蔵品情報管理・公開システム」は平成23年度に構築したのち、令和4年度にはレスポンス対応、ページデザインレイアウト変更等を行うことにより、利用者が使い勝手のよいシステムに改修を行う。
- ・また、システム内のコンテンツを最新コンテンツへ整備し、国内外に向けて岐阜県美術館の所蔵品を紹介する環境を整え、コロナ時下においてどこからでも所蔵作品に触れることが出来るシステムとする。
- ・著作権が有効な作品については、著作権保護の問題から作品画像を掲載しておらず、収蔵作品のほとんどが文字情報のみとなっており、利用者は作品をイメージしにくい。多言語化と著作権処理、新たな作品画像撮影を行い、利用者にとって利用価値の高いサイトとしていく。
- ・教育普及活動の事業報告について、従来、冊子を作成していたものをデータ化し、webサイト内に掲載する。

(2) 事業内容

- ・世界に発信するために作品情報の多言語化対応のための翻訳委託。
- ・所蔵品情報管理・公開システム充実のために、新たに掲載する写真撮影委託及び著作権権使用。
- ・事業報告をweb掲載するためのデータ作成等の委託。

(3) 県負担・補助率の考え方

県民の美術館利用の利便性を図るため、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
役務費	942	・著作権版権使用料 @20,000×30点=600,000円 ・翻訳費 @9,000×38枚=342,000円
委託料	1,768	・所蔵品公開システム デジタル写真撮影一式 800,000円 ・教育普及Education デジタルデータ等作成一式 968,000円
合計	2,710	

決定額の考え方

必要に応じて既定予算にて対応することとし計上を見送ります

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略」の「3 地域にあふれる魅力と活力づくり ①「清流の国ぎふ」文化・芸術の創造・伝承」

(2) 国・他県の状況

コロナ禍において、他県美術館においても、デジタルアーカイブの整備が進んでいる。

(3) 後年度の財政負担

毎年Webサイトの保守運営委託費が発生。

また、現在、約3,500件分について、デジタル撮影もしくは著作権に係る手続きが出来ていないため、インターネット上で閲覧できない状態である。デジタル画像の撮影や著作権に係る手続きには時間や手間がを要するため、1年間に取り組める作品数は30~50件程度であり、今後も撮影および著作権処理業務等の費用が必要となる。

(4) 事業主体及びその妥当性

コロナ時下において岐阜県美術館の事業を広く国内外に知らせるとともに、誰もが見やすく読みやすいユニバーサルデザインを配慮したWebサイト運営は欠かせないものであり、県の負担は妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

所蔵品情報管理・公開システムをリニューアルするとともに画像掲載作品を増やすことで、多様なニーズに応えられる利便性を備えたものに整備し、国内外へ情報発信を行う。令和4年度当初からページデザイン及び、レスポンス対応調整事業に取りかかり、スマートフォンやタブレット等、モバイル端末での通常文字サイズでの閲覧を可能にし、アクセス数を増やす。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①所蔵品情報管理・公開システムサイトセッション数	7,194	7,011	8,000	9,000		64%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>○取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の保守内容の範囲において、所蔵品情報管理・公開システムの更新を行った。 <p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新収蔵作品の情報を更新しながら所蔵品情報管理・公開システムの運営を続けていることで、年間7,000以上のページセッション数は維持できている。また、令和2年度の所蔵品情報管理・公開システムページのモバイルでの閲覧の割合は44.7%と約半数を占めていることから、レスポンス対応調整を行うことで、更なるアクセス数の増加が十分に見込まれる。 <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和3年度	<p>○取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の保守内容の範囲において、所蔵品情報管理・公開システムの更新を行った。 <p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新収蔵作品の情報を更新しながら所蔵品情報管理・公開システムの運営を続けていることで、年間7,000以上のページセッション数は維持できている。また、令和2年度の所蔵品情報管理・公開システムページのモバイルでの閲覧の割合は46.5%と約半数を占めていることから、レスポンス対応調整を行うことで、更なるアクセス数の増加が十分に見込まれる。 <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>高度情報社会の中、日々更新される情報を即時発信していくことを求められている今日の社会情勢に沿った事業であり、県の関与は妥当である。</p>
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 1	<p>所蔵品の閲覧や利用を介して美術館とつながりたいと思えるような、魅力的なシステムを構築していく必要がある。</p>
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 1	<p>保守管理の委託業者との情報共有が密に行われており、職員でも簡単に更新作業ができるシステムになっている。今後の所蔵作品数の増加に応じて、効率よく随時更新していくことが出来る。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 外部からの所蔵品画像貸し出しの要望に、webサイトを通じて対応していくことができるシステムにできると、学芸業務をより効率的に運営することができる。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>インターネットを介して情報を取得することが多い現代社会において、webサイトを最新の状態に更新していくことは必要不可欠である。 また、より利便性を高めるために必要なwebデザイン当の改修事業を継続して行っていく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	